

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女性, 10歳未満)あります。血清型・毒素型はO157(VT1V T2)で, 症状は腹痛・血便です。感染地域は国内で, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は34例で, 月別報告数は8月が21例と最も多くなっています。
- ・ クロイツフェルト・ヤコブ病(古典型)の報告が, 1例(男性, 60歳代)あります。症状は, 進行性認知症・ミオクローヌス・無動性無言状態・記憶障害です。感染経路及び感染地域は, 不明です。本年の累積報告数は4例となっています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.31(51例)で, 前週(0.95)に比べ少し増加しています。第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少した後9月以降横ばいとなっています。しかし, この時期には多い状態が続いています。
- ・ マイコプラズマ肺炎の報告が, 1例あります。全国では, 7月から急増し, 過去10年間で最も多くなっており, 今後の動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は0.11(7例)で, 先週の0.05(3例)より増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 9例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 6例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 406例(肺結核 202例, その他結核 75例, 潜在性結核感染者 129例)うち喀痰塗抹陽性 113例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 34例】
- ・ 五類: クロイツフェルト・ヤコブ病(古典型) 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.11	7
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.59	62
	② 手足口病	1.31	51
	③ 水痘	0.92	36
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.62	24
	⑤ RSウイルス感染症	0.23	9
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

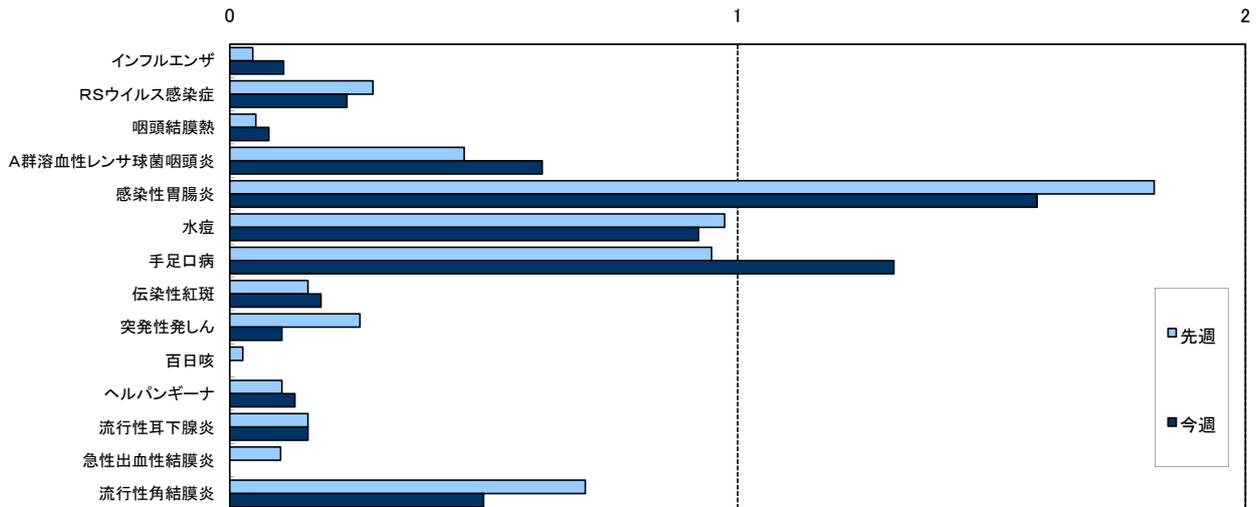
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

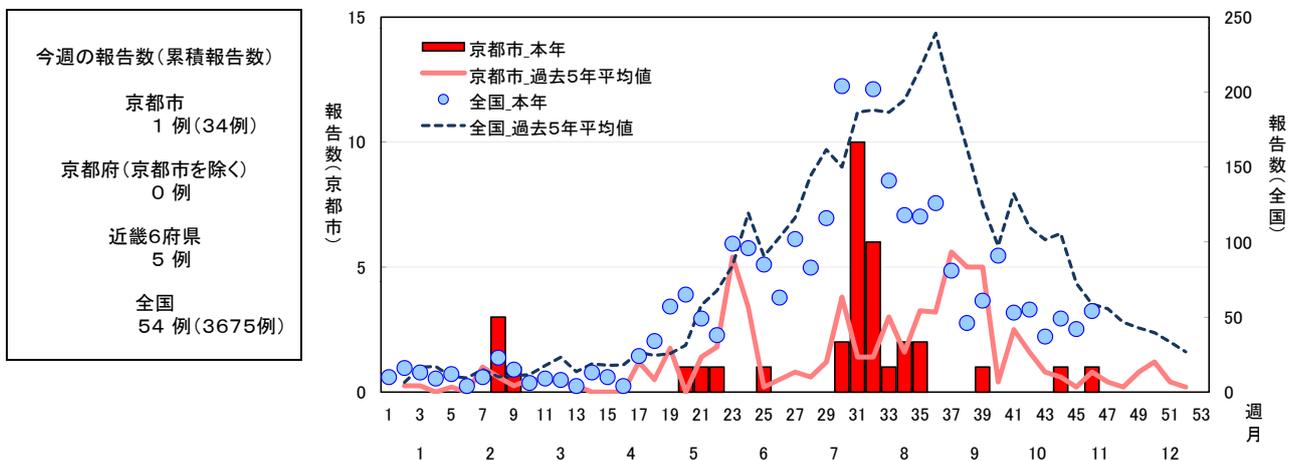
(注) 京都市のデータは, 平成23年11月25日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第46週)と先週(第45週)の定点当たり報告数の比較

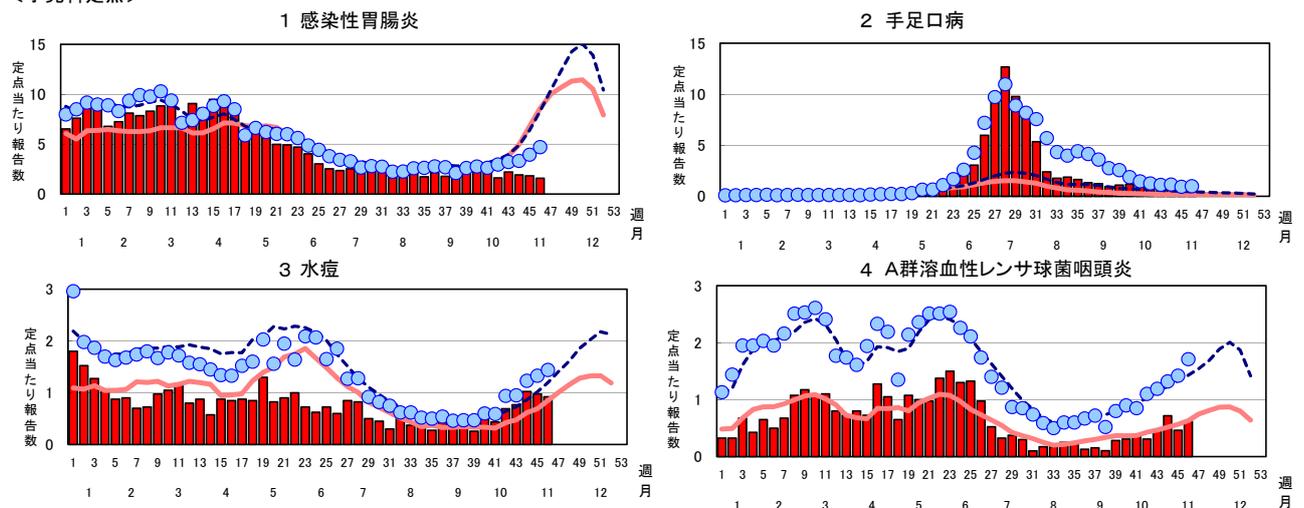


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

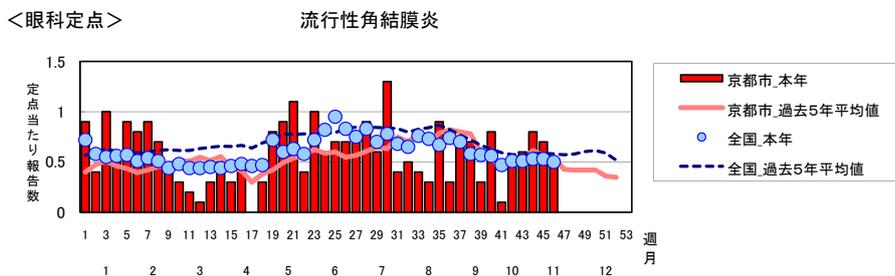


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



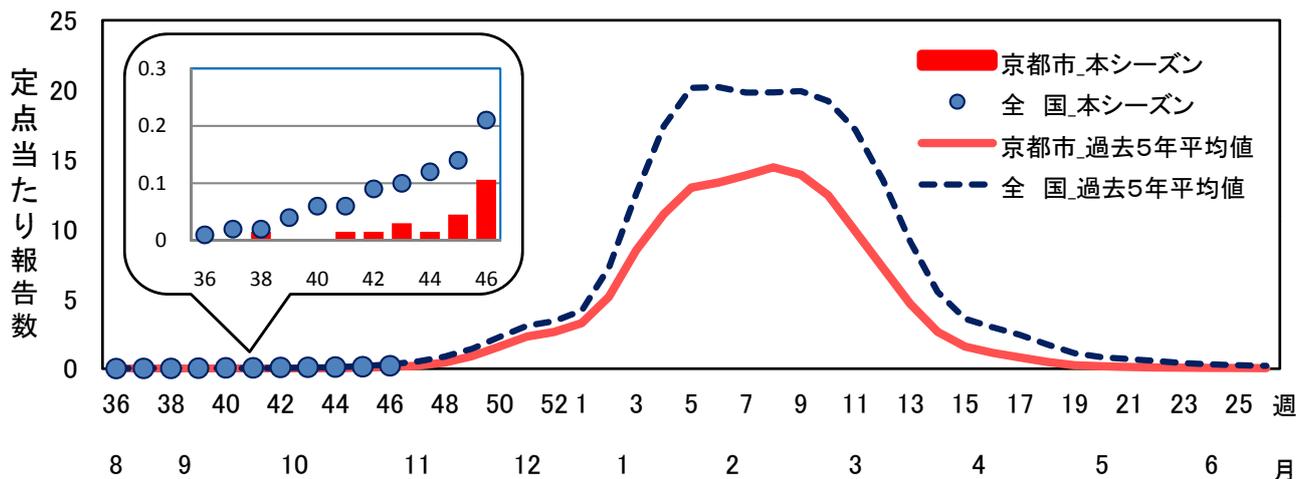
第46週(11月14日～11月20日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は0.11(7例)で、先週の0.05(3例)より増加しています。全国でも報告数が増加し始めていますので、今後の動向に御注意ください。

近畿6府県の定点当たり報告数は兵庫県で大きく増加しています。

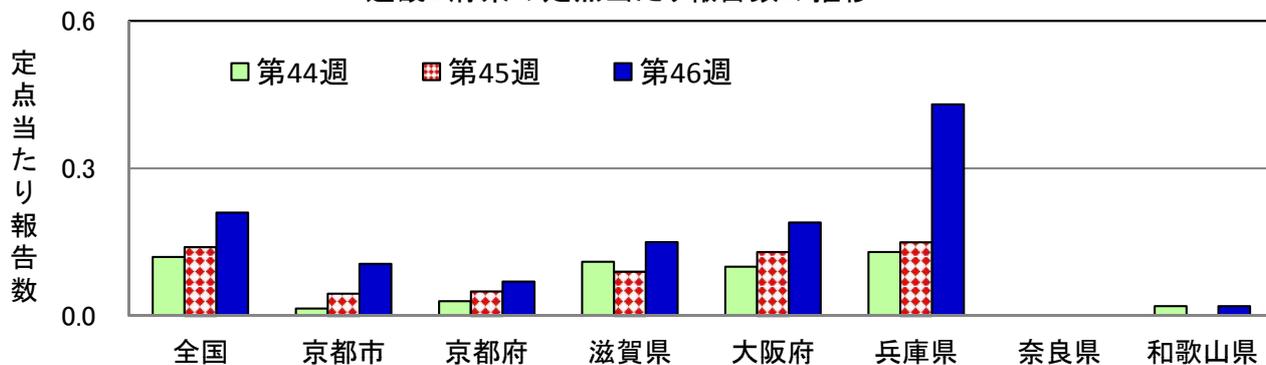
感染症情報センターに報告された全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告状況(11月28日現在)をみると、今シーズンはA(H3)型が約80%を占めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH17-H21年の平均値です。

近畿6府県の定点当たり報告数の推移



全国のインフルエンザウイルス分離・検出数(11月28日現在)

